

福井

「福井全研ニュース第 9 号」

「ぽ〜れぽ〜れ 7 月号」福井県版特別号

発行日 平成 30 年 7 月 25 日
 編集・発行 公益社団法人 認知症の人と家族の会 福井県支部
 事務局 〒910-0017
 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内
 TEL: 0776-28-2929 FAX: 0776-63-6756
 E-mail: monowasure@fmatsubara.com

ヒストリー福井 第 7 章「正岡子規が賞賛した福井の歌人」

第 7 章は第 6 章の「江戸時代」の話です。現在「介護独楽吟」をお願いしていますが、その「独楽吟」を作り上げた「橘曙覧」を紹介します。

曙覧は、文化 9 年（1812）5 月、福井城下の石場町（現福井市つくも）で紙、墨などの文具を商う家に生まれました。28 歳（25 歳、35 歳説あり）で家督を弟に譲り、隠棲して歌と学問に打ち込みました。学問は国学を学び、飛騨高山の国学者田中大秀に入門しました。福井藩主松平春嶽や京都の女流歌人大田垣蓮月らとの交流が知られています。曙覧は生涯のほとんどを福井で過ごし、慶応 4 年（1868）8 月 28 日に 57 歳で亡くなりました。



橘曙覧（たちばなのあけみ）

曙覧の歌の特徴といえば日常生活に題材をとり、身近な言葉で詠むということが第一に挙げられます。近世末期、花鳥風月を詠むことが主流であった時代に、曙覧は焼き魚や豆腐を食す楽しみ、紙漉きや銀山採掘などの労働風景、そして竹が生えた住まいの様子や衣についたしらみのことまで歌にしました。このような歌は当時の歌壇においては珍しく、曙覧の存在は異彩を放っていたといえるでしょう。曙覧没後、その歌は正岡子規を始めとする文学者に高く評価され、明治期の歌壇に大きな影響を与えました。

また、平成 6 年（1994）6 月 13 日、天皇皇后両陛下がご訪米された際の歓迎スピーチにおいて、ビル・クリントン アメリカ合衆国大統領が曙覧の「独楽吟」の中の一詩「たのしみは朝おきいでて昨日まで無かりし花の咲ける見る時」を引用し、再び脚光を浴びました。



←「橘曙覧記念文学館」

今もなお曙覧の歌に親しむ方は多く、日本はもちろんのこと、世界各国から曙覧を知りたいという方が館を訪れています。福井駅から車で約 5 分です。



「いざ！！全研へ！！」

「図書館に認知症特設コーナー設置 当事者の声の書籍を紹介」

全国研究集會に併せて、福井県下の図書館で「認知症の特設コーナー」を設置して頂くこととなりました。

今回は夏休みに図書館を訪れる学生やその保護者の方、また通常図書館を利用されている方に向けて、「認知症の当事者の方の書籍」を紹介頂くようにお願いいたしました。

次回は 9 月下旬の「アルツハイマーデー」にあわせて、「認知症」を取り巻く当事者の書籍を介護、福祉、医療の書籍も紹介していこうと予定をしています。

普段本棚に埋もれてしまっている、当事者の方の書籍が前に並んで多くの方の目にふれる機会ができてよかったです。すこしでも「認知症」について興味を抱いて理解して頂けたらと思います。



福井の味 第 5 弾 「羽二重餅」

はぶたえもち

第 5 弾は福井県和菓子代表格「羽二重餅」です。

羽二重餅は 1847 年（弘化 4 年）に錦梅堂で作られた銘菓です。

錦梅堂は、越前福井藩松平家の御用達だった初代紅谷伊三郎によって創業しました。

越前は絹織物の名産地であり、それをイメージしたお茶菓子として藩主に献上しました。

羽二重餅は餅粉を蒸し、砂糖・水飴を加えて練り上げた求肥です。

絹織物のようなサラサラ感で、なめらかさと柔らかさがあり、白くて美しい輝きが特徴です。

優しい甘さがあり、軽くてふらりと口の中にとろける羽二重餅は、まさに絹です。

羽二重餅を使用したお菓子もたくさんあり、福井県民にとってはなじみのあり、郷土土産として活用しています。



福井駅構内のプリズム福井内のお土産売り場には、たくさんの「羽二重餅」の商品が並んでいます。「羽二重餅」だけではなく「羽二重どらやき」「くるみ羽二重」など、美味しい商品もたくさんあります。福井のお土産に是非！！

介護独楽吟 ご協力ありがとうございます

「介護独楽吟」って何? No7

幕末の福井の歌人・国学者の橘曙覧は清貧に甘んじ家族との生活の中に喜びや楽しみを見出し、「たのしみは」で始まり「する時」で終わる歌 52 首を詠み歌集「独楽吟」として残しました。

認知症の人と家族に対する理解と支援を多くの皆さんに求めるため私どもの「介護独楽吟」を全研会場だけでなく福井市内の公共機関等に掲示させてもらいたいと考えています。

現在全国各支部から独楽吟のポスターをいただいています。ご協力ありがとうございます。

皆様とても心温まる詩の為、冊子にまとめるか、抄録に掲載するか現在検討しています。

当日は、皆様の心温まる詩で全国研究集会を盛り上げていきたいと思ひます。

※ 独楽吟はあまり形式がなく、みなさまに親しみやすいものと思ひます。ぜひ日記感覚で筆を執っていただけたらと思ひます。

送付先 認知症の人と家族の会福井県支部事務局

〒910-0017 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内

FAX : 0776-63-6756 E-mail monowasure@fmatsubara.com

介護独楽吟

福井県支部

たのしみは妻の手ほどきオムツ換え

上手くできたと褒められるとき

六十代男性

たのしみは聞いて聞かせてつどいの場

この日だけはと参加するとき

六十代女性

たのしみは下の世話してありがとう

小さな声で言うを聞くとき

七十代男性

たのしみは認知の母のお泊り日

二人で飲み語り合う時

四十代酒豪夫婦

たのしみは袋を持ちて手をつなぎ

ごみ捨てかねて散歩するとき

八十代男性



運営委員の声

6 月 18 日早朝に起きた「大阪北部地震」、7 月 2 日から 9 日にかけて起きた「平成 30 年 7 月豪雨」にて犠牲に合わせ方へお悔やみを申し上げます。また被災され、現在復旧作業に日々追われている方の様子を見て、今年の福井豪雪を思い出し、心が締め付けられます。

また記録的な酷暑もあり、心身ともに疲弊されているものと思ひます。少しでも早い復旧と平安な日常が戻ってきますよう、心からお祈り申し上げます。